

[月刊]キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2018年6月1日発行（毎月一回発行）第726号

ISSN 0286-7001

# 本の ひろば

6 JUNE  
2018

## 出会い・本人

北御門二郎とトルストイとの出会い

小宮 由

## 特別企画

ノエル・ストリートフィールド著 シリーズ邦訳刊行記念

翻訳家 中村妙子さんインタビュー

## エッセイ

ティモシー・S・レイン／ポール・デーヴィッドトリップ著

『人はどのようにして変わるのか』を翻訳して

田口美保子

## 本・批評と紹介

小島誠志 著

55歳からのキリスト教入門 上島一高

上野峻一、田中かおる 編著

恵みによって生きる人間の形成

長山 道

袴田康裕 編

地の塩となる教会をめざして 星出卓也

辻 哲子 著

み言葉に生かされ 及川 信

岩井健作 著

聖書の風景 野本真也

塩野和夫 著

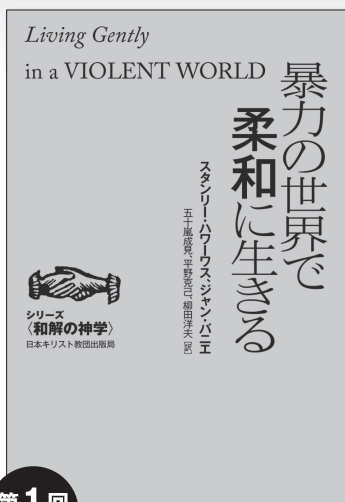
キリスト教教育と私 後篇 松見 俊

既刊案内

書店案内



神学者と実践家が「和解」について語り合う新シリーズ



# シリーズ和解の神学〈全3巻〉 暴力の世界で 柔和に生きる

S. ハワーワス/J. バニエ  
五十嵐成見/平野克己/柳田洋夫 訳

暴力が支配する世界において、私たちはどのように生きるべきか。知的障がい者と共に生きる共同体「ラルシュ」の創設者であるバニエと、現代アメリカを代表する倫理学者ハワーワスが「新しい生き方」を問う。 ◆四六判 並製・152頁・1,728円

第1回  
配本

2018年5月25日刊行予定

シリーズ続刊予定

第2回配本  
2018年9月刊行予定

『すべてのものとの和解』 E. カトンゴレ/C. ライス  
佐藤容子/平野克己 訳

第3回配本  
2019年1月刊行予定

『赦された者として赦す』 G. ジョーンズ/C. ムセクラ  
岡谷和作/藤原淳賀 訳

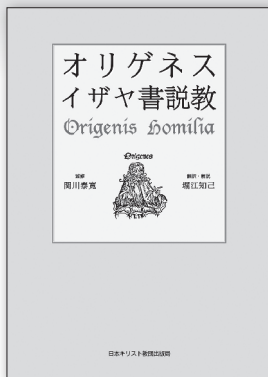
# オリゲネス イザヤ書説教

関川泰寛 監修 堀江知己 翻訳・解説

古代教会最大の神学者オリゲネス。常にキリストを念頭に語る彼のイザヤ書説教は、今でも聖書の魅力を新しく伝える。生涯や神学等の解説付き。

2018年5月25日刊行予定

◆A5判 上製・216頁・2,700円



## 出会い・本・人

### 北御門二郎とトルストイとの出会い——小宮 由



私の人生を変えた、人、そして、本との出会いは、祖父・北御門二郎であり、トルストイ文学である。

祖父は、一九一三年（大正二年）熊本の生まれで、十七歳のとき、トルストイの『人は何で生きるか』という作品に出会い、絶対的非暴力の思想に目覚めた。その後、帝国大学（現在の東大）に入学するも、トルストイを原書で読みたいと、二十三歳のときに、ロシア語を学びに旧満州に渡る。昭和十三年、日中戦争が勃発して二年目の年、二十五歳だった祖父のもとに召集令状が届く。祖父は、トルストイの絶対的非暴力の思想に基づき、死を覚悟して兵役を拒否。その後、勤労奉仕にも従事せず、戦後、農業のかたわら、五十代から本格的にトルストイ文学を翻訳し、生涯、戦争の愚かさ、平和の尊さ、憲法9条の大切さを訴えつづけ、二〇〇四年、九十一歳で亡くなった。

私は、高校三年から、大学の四年間、祖父が訳したトルストイ文学に没頭した。祖父ともよく語り合った。私が、最も影響を受けた本は、トルストイが執筆・編集した、『文読む月日』という偉人たちの金言集だ。その中に次のような一節がある。

「二羽の燕が春を呼ぶのではないと言われる。しかし、たとえ一羽の燕では春を呼べないとしても、すでに春を感じた燕としては、飛ばないでじっと待っているわけにゆこうか？ もしもすべての蕾や草がじっと待ってばかりいたら、春はけっしてやって来ないであろう。そのようにわれわれとしても、神の国の建設のために、自分が一羽目の燕か千羽目の燕かなどと、考える

必要はないのである。」

祖父が、兵役を拒否したのは、まさに春を感じた燕だったからだ。当時、時の政府が、どんなに「富国強兵、忠君愛国」と国民に説いてもトルストイと出会い、戦争は罪悪だと感じてしまった祖父は、自分が一羽目の燕だろうと、千羽目の燕だろうと関係なく、自分の良心に従って兵役を拒否するしかなかった。

それは、想像を絶する覚悟だったろう。良くても投獄、最悪、銃殺刑か絞首刑だ。もし、祖父がそうされていたら、私はこの世にいない。だが、こうして生を受けた。「何のために？ どうして？」その答えをくれたのは、やはりトルストイだった。だから私は、自分の良心に従った本のみを翻訳しつづけている。

戦後、七十年が過ぎ、いまの政府が熱心に説くのは「国家安全保障」だろうか。過去最高に膨れ上がった防衛費を背後でうまく動かしながら、自衛隊が憲法9条と合わないからと、憲法を変えようと議論が進められているが、どうして反対に、自衛隊を変えたら？ という議論はされないのか。自衛隊が、人殺しの道具を捨てれば、憲法上、問題ないのではないか、という議論があってもいいはずだ。

武器を捨て、代わりにそのお金で世界中の困っている人たちを救う。仮にそれができたとしたら、そんな国をどこの国が攻撃してくるだろう？ トルストイが、もう百三十二年まえに『イワンの馬鹿』で教えてくれているというのに。

## 翻訳家 中村妙子さんインタビュー

児童文学から神学書まで幅広く翻訳されてきた中村妙子さん。翻訳した本は三〇〇冊以上にのぼります。今年教文館から『バレエ・シューズ』が刊行され、『ふたりのエアリエル』『ふたりのスケーター』とあわせて三作が揃いました。本と翻訳のこと、新刊についてうかがいました。



中村妙子（なかむら・たえこ）  
翻訳家。児童文学をはじめC. S. ルイスの著作と評伝、A. クリスティの小説などの多数の翻訳書がある。

### 牧師の家庭で育って

——おじいさまが植村正久、お父さまが佐波亘<sup>わたな</sup>という牧師の家庭にお生まれになりました。ご家庭の様子を教えてくださいませんか。

中村 父は本が好きで、説教でも本からの引用を交えながら話していました。昔

は図書館も機能していませんでしたし、自分で手に入れるしかありません。まして、父はかいつまんで読むというより、

必ず本物に触れることを大切にしていたので、裕福ではないのに本や全集を買いこんでいましたね。とりわけ、西洋のお話が好きだったので、私はバタ臭い本の中にいたと思います。

——お父さまの書齋に自由に入っていましたか。

——おじいさまが植村正久、お父さまが佐波亘<sup>わたな</sup>という牧師の家庭にお生まれになりました。ご家庭の様子を教えてくださいませんか。

『千夜一夜物語』ではクリスチャンは偽善的だと描かれていますし、そのような本にも触れていました。

——どちらか一方に偏るのではなく、両方の本を持っていたということですね。

中村 そうですね。父は牧師ですが、キリスト教を批判する本まで手に入れていました。多様な本が子どものまわりにあった、読みたいという意欲が出てくるのが大事ではないかと思えます。

年齢と共に物事を深く考えるようになり、そうした時に兄が、無教会の本や科学とキリスト教、矢内原忠雄先生に関連した本などを教えてくれて、とても有り難かったですね。

姉が入院していた病院に塚本虎二先生

がちょうどお入りになっていて私もお目にかかり、大変面白いお話をうかがったこともありました。そのご縁で、後に岩波書店から『新約聖書——福音書』が刊行された時、ある雑誌に「普通の主婦の感想」という書評を書かせていただいたことがあります。

### 少女時代の読書体験

中村 小学生のころ、雨の日にお話会という時間がありました。私はお話が得意だったので、グリム童話『フリーデルとカーテルリースヒェン』で夫婦の名前を「たろさく」と「おはな」に変えて、講談めいて話を披露しました（笑）。講談も好きで、『講談全集』の古本を三〇銭とか四〇銭で買って読んでいましたね。

——それは意外です。エンターテインメ

したのでしょいか。

中村 はい。父の本棚の利用者は、三きょうだいの中でも私が一番でしたね。

姉や兄は学校の勉強にきちんと取り組んでいましたが、私は勉強をせず本ばかり読んでいました。

蔵書の中には『千夜一夜物語』もあって、戦前のことですし、道徳的に問題があるとされた箇所はすべて伏せ字にされ

ントものもお好きなんですね。

中村 はい（笑）。

あと、「世界大衆文学全集」で、パーネット『小公子』、エクトル・マロ『家なき子』、バロネス・オルツイ『紅はこべ』などを読みました。当時日本で書かれた子どものお話は教訓的だったり、妙に昔っぽくしてあったりして退屈でした。そのため翻訳の本を読みました。とはいえ、その翻訳もかいつまんで短くしてある抄訳ばかりで完訳はなく、子ども心にこれはおかしいのではと思うことはありました。

——作中でつじつまが合わないということでしょうか。

中村 そうです。『ピーターパン』では、ウェンディーのお父さんが失職中の家に乳母がいてお世話をしているし……。それでも外国のお話は知らないことばかりで、王子さまやお姫さまが出てくるお話よりも、実際に生きている子ども

もたちのお話を好んで読みました。

——原書に触れたのはいつごろのことでしょうか。

**中村** 英語で読み始めたのは、津田英学塾に入学してからです。宣教師の方々が帰国なさる前に蔵書を置いていらしたのか、学校の図書館には原書がたくさんありました。

## 村岡花子さんのこと

——佐波巨牧師が牧会されていた大森教会の教会員には、翻訳家、児童文学者の村岡花子さんがいらっしゃいました。

**中村** 村岡さんはご担当された本が刊行されるたびに、父に献本して下さっていました。マーク・トウェイン『王子と乞食』を翻訳された時にも、村岡さんからいただいていた読みました。

一八九〇年に祖父植村正久が創刊し、父佐波巨が続刊していた『福音新報』と



いう伝道誌がありました。その誌上にも、村岡さんが時折童話を寄稿して下さっていました。小さいころにはひらがなが多い童話の記事だけ読んでいましたね。それまで日本に紹介されていなかった本が紹介されていて、『ハウフ童話集』もそこで読みました。

——抄訳で出合って、その後ご自身で翻訳された本はありますか。

**中村** ジョージ・マクドナルド『北風のうしろの国』も村岡さんが『福音新報』で紹介されていて読みました。全部抄訳で、お姫さまの名前もカタカナではなく、「日の出姫」というような名前です。

た。当時、西洋の名前は覚えにくいと思われていて、親しみやすいよう全て日本名に変えられていました。

## 翻訳家として

——翻訳の技術については、津田英学塾で学ばれたのでしょうか。

**中村** 受験英語として勉強しましたが、翻訳については習いませんでした。ただ翻訳に関心のある先生がいらして、厳しく指導されていました。学生に訳させて気に入らないと、その人を立たせたまま他の人に次々と当てていくというスタイルでした。その時的確な訳語を意識しました。とある課題でよい批評をいただいたことは、翻訳の仕事を目指すきっかけにもなったと思います。

——学生時代、雑誌に投書されていたこともあったとか。小説家になろうとは思われなかったのでしょうか。

**中村** 恵泉女学園三年から『少女の友』に投書していました。一度、「光を待つ」という短編が懸賞小説の第三席に選ばれ、懸賞金一五円をいただきました。テーマは、教会を意識していたのか、目の悪い姉妹が日曜学校に来て讚美歌も出てくる話だったと記憶しています。

ただ、自分は小説家になれるような創造力はないと思っていました。とりとめもないことを考えるのは好きだけれど、小説が書けるとは思わずに見切りをつけました(笑)。

——一つの物語を繰り返し読んで、分かりやすくまとめる方が、ご自身にとって自然だったのでしょうか。

**中村** ええ。講談も同じですが、まとめてお話するのが好きだし、海外の物語を縮めることも好きです。父も文学青年だったようで、「こういうものは書いてはいけない」「読んではいけない」とは言いませんでした。

——ご家族以外には身近な読者がおられましたか。

**中村** そうですね。叔母の植村環(たまたま)師)は私が翻訳する本に関心を持ってくれたので、必ず献本していました。そうすると、叔母に見せたくない本はなかなか訳せないということにもなりますが(笑)。

## 翻訳は生活の一部に

——児童文学とキリスト教の本を翻訳するときには、心構えの違いはありますか。

**中村** あまり意識はしていません。ただキリスト教の本だったら大概引き受けるのですが、そうでない分野の本はやりたくない仕事の中にはあります。翻訳はその本の中に入り込むから、自分とはまったく違う意見だと訳しにくくなってしまうます。



挿絵は『バレエ・シューズ』より。  
(ルース・イザベル・ダイアナ・ストレットフィールド・ジャーヴィス)



クロースっているんでしょうか?』となるでしょうか。

**中村** そうですね。新聞社に少女からの手紙が届き、その答えが掲載された社説を訳した本です。

元々同じ時に上梓された『クリスマス物語集』のために選ばれた一編でしたが、絵も東逸子さんが特別に描いて下さって、一冊の絵本になりました。今でも毎年よく売れています。

それからターシャ・テューダー『クリスマススのまえのばん』ですね。マインダート・ディヤング作、ジム・マクマラン絵『びりっかすの子ねこ』は読書感想

いと思っていました。私の姉も兄も大変優秀でした。私はというと、本ばかり読んでいたものだから、そんなノエルの気持ちが分かるんです。

ノエルは生き方が不器用なところもあるし、いわゆる児童文学者とは違うと感じます。その性格も、自分と似ていると思いました。お金のやりくりなど、身に染みることはあるし(笑)。

ストレートフィールドの本は、読者の対象も小学校三、四年生ぐらいからで、現実的な描写、細部まで丁寧に描かれています。

また、今回の挿絵はかわいくて、物語

文の課題図書になり、多くの読者が与えられました。戦争で本が焼けてしまったから、大人も子どもも本を求めていたのではありませんか。

以前翻訳したアガサ・クリステイ『春にして君を離れ』も、近年、メディアで紹介されました。

大変メジャーな著者ですが、「あ、こういう本もあるんだ」ということで買う読者が多かったようです。

### 新刊について

——一番お気に入りの翻訳書はありますか。

**中村** どれも一番というのはありません。いつでもその時の一番新しいものが好きです。その意味で、教文館から出していたいただいたノエル・ストレートフィールド『ふたりのエアリエル』『ふたりのスケーター』『バレエ・シューズ』です。

にピッタリ合っているところも気に入っていますね。『バレエ・シューズ』の絵をノエルが一番上のお姉さんが描いていたのは知らなかったのが、驚きました。

——三作とも挿絵は、著者と同時代に生きた方のものを使わせていただきました。大人たちが子どもを見守る姿も印象的でした。こういう言葉がかけられる人になりたいということが感じられる物語ですね。クリスマス風景も、楽しみに描かれています。

**中村** そうですね。教会の場面は出てきませんが、牧師の娘だからか、無意識のうちにはキリスト教らしい風景も織り交ぜ

——ありがとうございます。『バレエ・シューズ』は映画化もされましたし、大人の読者からの感想でも、子どものところに読んだという声も多く聞きました。

**中村** 著者はイギリス人ですが、アメリカで人気が出たようですね。最初の版は、すぐ書房の方が『家族っていいな』や『大きくなったら』に興味を持たれて翻訳することになりました。

——ノエル・ストレートフィールドの作品を読まれてどのように感じましたか。少女たちの成長の様子に加えて、生活のやりくりについて頻繁に出てきますね。

**中村** ノエルは、一八九五年イングリッドの牧師の家庭の、六人きょうだいの二番目として生まれました。

私も同じく牧師の家庭で育ち、ノエルの幼い時のちよつとした挫折感が分かるような気がします。ノエルもお姉さんが有能な人だったし、きょうだいも人好きがするような性格で、自分がそうではな

られています。

私も幼い時に父から「教会員がつまずくこと」だけはしないように何度も言われていました。牧師の家庭は普通の家と違うから、周りの人をつまづかせたらいけないということ。そういう気持ちがあるにあって、自由奔放ではない部分があります。それがこの三作にもあらわれていると思います。

——『メアリー・ポピンズ』とか、あといった小説の自由さとは違う味わいがあります。今日はありがとうございます。(聞き手) 教文館・倉澤智子、福永花菜

## 中村妙子の新訳で贈る N.ストレートフィールドの3作!

**バレエ・シューズ** ●1,300円

姉妹として育てられた3人の孤児の少女たちが、歴史に名を残すことを誓い合い、それぞれの天分と努力で自分の進む道を選んでいく。  
新訳で登場!

**ふたりのエアリエル** ●1,400円

ソレルが、従姉との競演の果てに、かんだ夢とは...! 演劇の家に生まれた子どもが、進む道を模索する姿と、温かく見守るおとなたちの姿を描く。

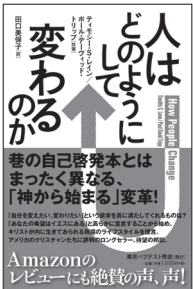
**ふたりのスケーター** ●1,200円

健康のためスケートを始めたハリエットと、将来を期待されるスケータースター選手、ララ。ふたりが切磋琢磨しながら成長する姿をさわやかに描く。

ティモシー・S・レイン／  
ポール・デーヴィッド・トリップ 著

『人はどのようにして変わるのか』を翻訳して

田口美保子



本書は、アメリカで、聖書を心のケアをするのに十分に必須のものと考へて行われている、ビブリカル・カウンセリングの教材の一部から構想を得て書かれた本です。人は、クリスチャンであると宣言していても、気付かぬうちに心の内で神以外の偶像、つまり、人であれ、お金であれ、自分の正しい行いであれ、創造主ではなく被造物の何かを拜んでしまう傾向があります。この個人の心の内における礼拝の秩序の混乱こそが、あらゆる問題の根源であり、永続的な変化は、その心の偶像を認め、十字架を仰ぎ見、信仰を持って悔い改め、神によって心が変わえられることでのみ可能であると本書では指摘されています。

特に、本書の優れた所は、その偶像を発見し、悔い改めへと導くために、分かりやすく人の変化の過程を、〈熱〉、〈とげ〉、〈十字架〉、〈実〉という四つの要素を用いたモデルによって説明しているところです。

きていくべきことに気付かされました。そこから、新たなクリスチャンとしての決意を持つての人生の再スタートとなりました。

社会人となり、五年ほど後、主なる神への情熱を持った、心優しい男性と結婚しました。今振り返れば、神によって、目に見える優しく愛深い夫と三人の子供たちを与えられ、主への献身を置き去りにし始めたのだと思います。

私は、夫の庇護のもと、文字通り人生をささげて伝道活動に邁進した二十代にできなかったあらゆる好きなことを楽しみました。しかしながら、第三子出産後、体調を崩し、悩んでいた時に、ビブリカル・カウンセリングを行っている東京バプテスト教会に通うようになりました。

主は、今回の翻訳作業を通して、私に毎章ごとに、語りかけてくださいました。翻訳していることと、日曜礼拝のお説教と、自分の人生で起きていることがあまりにも一致するので、恐ろしいほどでした。時には、目の前に主が座り、私に直接語りかけ、鍛錬してくださいているのを感じました。比較的若くして主に巡り会ったこともあり、自分は、「行動的には」それほど罪人ではないように感じていましたが、自分の目には正しく思えていたり、明確に正しくない行動の裏側にある、心の状態を、主なる神は、明らかにしてくださいました。

私は、本書でも引用されているルカ福音書二一章一一〜三二節の放蕩息子のたとえの御言葉を読む時は、いつも、自分は兄

私自身、本書を翻訳する中で、そのモデルを通して、実際に心の変化を体験しましたので、それをここで証しさせていただきます。

高校生の時、アメリカ・イリノイ州にある、小さな町に交換留学した際に、バプテスト教会の牧師家族の一員となり、受洗しました。帰国後は高校三年生だったこともあり、教会へも通わず、受験勉強に没頭するようになりました。大学入学後、成し遂げたかった留学や志望大学への入学といった目標を果たした私は、人生の目的を失い、何のために今まで努力してきたのか、何のために今生きているのかも分からなくなり、半年ほど苦悩していました。その時に、クラスメートの一人が、教会へ誘ってくれました。また、久しく本棚に置きっぱなしだった聖書に手を伸ばし読んでみますと、マタイ福音書五章からの「山上の説教」が渴き果てた砂漠に水が吸い込まれるように、心に入ってきたことを今でもはっきりと覚えています。特に、七章二四〜二七節の、「家と土台」の御言葉が心に刺さりました。自分の人生は、砂の上ではなく、聖書という岩を土台として生

の側だと思っていました。でも、違ったのです。私こそ、放蕩息子だったのです。主の与えてくださった恵みを、文字通り自分のために使い果たして好き放題をし、体調を崩し、少しずつ主へ立ち帰る道を進んでいた私を、主は、完全に今回歩むべき道に戻してくださいました。何度この翻訳中に泣いたか数えきれませんが、放蕩息子を抱きしめた主の愛は、完全に悔い改めへと導いてくださいました。

この本を手にとられる読者の方々も、必ず同じことを体験されることでしょう。この主の愛と希望に満ちた変革の本が、主との関係とその成長、その他の「生き方」の問題で悩む多くの人々の元に届き、「変化」という実が生じるようになることを願っています。

(たぐち・みほ 東京バプテスト教会にて翻訳の奉仕に従事)  
(A5変型判・四〇八頁・本体一〇〇〇円＋税・ヨベル)

T・S・レイン／P・D・トリップ 田口美保子訳 注文殺到！  
人はどのようにして変わるのか A5変型判・四〇八頁 一〇〇〇円＋税  
自分の心に存在する偶像からの解放？  
試練に遭遇している方に？

ヨベル YOBEL Inc.  
info@yobel.co.jp  
\*自費出版の専門出版社\*

祈りたい、祈っていい、祈ることができる！

小島誠志著

## 55歳からのキリスト教入門

イエスと歩く道



上島 一高

キリスト教は初心者でも、人生の甘さ苦さを知る「55歳からの」人々に、間口は広く、しかし、奥行きは深く、全く内容は薄めずに書き下ろされたのが、全十章の本書である。

それゆえ、小島はいきなりキリストを裏切ったユダを取り上げる。しかし、ここに小島が人々に向き合う決意（神が我々を救おうとする決意）の想像を絶する切実さがある。

ユダは、イエスが「夜通し神に祈っ」て任命した弟子だ。しかし、彼は「神の御業」を待てず、自身の祈りを止め、「自分の命の意味を見出すこと」ができず自滅する。【第一章】

「神の御業」を待ちきれなかったのは、それが前進せずに停滞し、逆流したから。しかし、そこにこそ「混沌の中に貫いている一筋の道」、「神の御業」があった。【第二章】

神は御自身を低くする全能により、我々に「永遠の命（神との交わり）への扉を開く」。そこで「人間は初めてかけがえのない人格として見出されている自分を知る」。【第三章】

我々は、直面する苦難の中で、ヨブのように「なぜ？」と問う。「主が奪つ」のだから「主に」。その時「主から祈った者に

答えが与えられる」。《主と奪つるゆえに我あり》【第四章】

神は、苦難に遭う者（ステファノ）の「周り」で眺めて「いる人々には沈黙しているように」見える。しかし「渦中で祈っている人間に神は栄光を見せてくださる」。【第五章】

なぜなら、神は「自ら痛みを負われる神」（放蕩息子子の父親）だからだ。「息子が行きづまり転落し父をあえぎ求めるよりもはるかに切実に激しく父は息子を待っていた」。

「神のふところに抱かれたあとで」我々は知る。「自分が帰ったのではない。神が自分を見つけて出してくださったのだ」と。《神捜すゆえに我あり》【第六章】

神のふところにある「ゆるがない平安」から、「逸脱する」ことのないように、我々はイスラエルの民同様「内憂外患の困難な旅路」にあつて、「安息日を守らなければ」ならない。

それがなければ、神の民は「内部から崩壊」する。「休息のない労働の日々から解放され」、「存在のすべてを投げ出して」休み、「神を礼拝する」ことで、教会は教会に成る。【第七章】

もつとも、「飢えた大勢の群衆」を安息に招くべき教会には

上、「」内は引用、○は評者による補足

特に、二章には伝道者小島の初陣が、四章には神と出会った高校時代が、八章には四国山地の小さな教会での現在の働きが、九章には伝道五十年にして思う所が綴られている。

最終盤、往年のプロ野球選手で練習の虫・広島カープの衣笠祥雄が引かれるのは、小島らしい。評者が高校時代初めて小島と出会ったのも教会対抗ソフトボール大会だった。

七十歳を超えてなお軽やかにゴロをさばく姿は、たゆまず続けて来た練習の賜物であるが、同時に、神と出会って以来、父に祈り続けて来た子・小島の信仰の足腰でもあると知る。

この本の副題は「イエスと歩く道」である。歩いているうちに、一見、道が狭くなって行くように感じる。しかし、それと反比例するように、真に懐かしい風景が大きく開けて来る。

（かみじま・かずたか 日本基督教団 松山教会牧師）  
（四六判・二二〇頁・本体二二〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

## 井上洋治著作選集10 全10巻完結!!

### 日本人のためのキリスト教入門

井上洋治著作 一覽

山根道公 編・解説 若松英輔 解説

慶應義塾大学における講義を初の単行本化。高橋たか子の再録エッセイ、佐藤優の書き下ろしエッセイも併せて収録。  
A5判・252頁・2700円

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyoku@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)  
http://bp-uccj.jp

日本語で書き下ろす聖書注解  
シリーズ最新刊!



## NTJ 新約聖書注解 ルカ福音書

1章〜9章50節 嶺重淑

シリーズ刊行開始記念  
特価 4752円  
(2018年9月30日まで)

最新の研究に基づいて書き下ろすルカ福音書注解、三分冊の第一巻。原文に忠実な翻訳を掲載し、テクニクの現代的意味を考察。  
A5判・490頁・通常価格5616円

手持ちが「ない」。しかし教会の主が、「ある」ものから分けられると、「配っているうちに増え」た。【第八章】

その教会を、「汝の敵を愛せよ」とのキリストの言葉が絶えず問う。これに答えることが、教会を「完全」にする。「敵を愛せない」時、実は「私たちにとつての悪人がおり、善人がいる」。

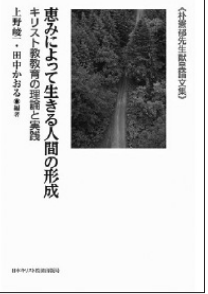
本当は「神に相応しい人間」などいないにもかかわらず、「この命を守り育てるため」に……神は全能の御業を行なつてくださる。この「憐れみから逃れ得る命はない」。【第九章】  
本書のテーマは徹頭徹尾「祈り」である。小島は言う。信仰とは「自らの中にある切実な求め（飢え渇き）を神に投げかけ」、「祈ることができるといふこと」だと。

祈る時、「人間の目には隠されていた神の創造の現実が立ち現れて」くる。事実、各章の中に「神に向き合い神からの答えを受けとりながら」変えられた小島の姿がある。【第十章】（以



朴憲郁先生の薫陶を受けた働き手たちの献呈論文集  
上野峻一、田中かおる編著

## 恵みによって生きる人間の形成 キリスト教教育の理論と実践



長山 道

二〇一八年三月末をもって東京神学大学教授を定年により退かれた、朴憲郁先生の三十年にわたる神学教育を記念し、十人の愛弟子たちが論文集を献呈した。副題「キリスト教教育の理論と実践」に表されているように、同大学で朴先生はキリスト教教育を講じられ、献呈論文もキリスト教教育に関するものが寄せられている。

朴先生は同時に、新約聖書神学の専門家でもある。この論文集につけられた『恵みによって生きる人間の形成』は、先生が特に専門とされているパウロ神学に裏打ちされた、先生のキリスト教教育観を端的に言い表すものである。また、先生は同大学でキリスト教教育のみならずアジア伝道論をも講じられ、さらに神学教師であると同時に教会に仕える牧師として、豊かな牧会経験から神学生たちを指導された。こうした先生の神学教育の長さとは、献呈論文にそのまま反映されている。寄稿者は二十五年近く前の卒業生から今春の新卒者にまで及び、みな現在伝道の第一線で活躍中である。その働きの場は教会をはじめ、キリスト教大学、中学・高校、幼稚園、神学校、ユース

ミッションなど非常に多岐にわたる。それぞれの論文で扱われている年代は旧約聖書から現代まで、論じられている地域は、聖書の舞台はもとより、日本、韓国、アメリカ、ヨーロッパに及ぶ。また内容も、キリスト教教育理論、キリスト教教育史、教会教育、教会学校論、キリスト教学校教育、教育実践記録、説教論など実に多様である。

この多彩で自由な論文集の中ではつきりと一筋貫かれているのは、福音主義的なキリスト教教育観である。朴先生はしばしばコリントの信徒への手紙二3章18節から、罪によって失われた神のかけがえのないキリストによって回復され、さらに他者との関係が引き起こされる、霊の働きのプロセスとしての人間形成を、キリスト教教育と結びつけて教えられた。こうした立場は、西島麻里子氏の論文「キリスト教教育が『日本の地方』で生きるための考察」における『神の像 (Imago Dei) 論』の一考」に顕著に表れている。この論文では、イエス・キリストにならい、神のかたちを体現する人間の教育が主張されているが、より福音主義的なキリスト教教育理解を鮮明にしているのは、編

者の一人である田中かおる氏の論文「教会における教育的使命——神の家族として育てる」第二章、川中真氏の論文「現代に求められるルター教育思想と神学」および大澤正芳氏の論文「子どもの創造的発見——ブツシユネル、バルト、ボーレンの人間観を巡って」である。聖霊の働きに注目しているのは佐藤愛氏の論文「ブツシユネル『キリスト教養育』の今日的展開」である。ブツシユネルの教育論に教会論や洗礼論的な視点からクリティカルに取り組む姿勢は、カテケーシスを基礎とする教会教育を講じられた朴先生の指導を反映している。また、この献呈論文集の編集に尽力した上野峻一氏の論文「日本の教会学校における一考察」も、教会教育を日本で学として成立させるために貢献された朴先生の線を受け継ぐものである。

朴先生自身も、この論文集に「コメニウスの平和教育のヴィジョン」を寄稿された。平和教育というテーマは高橋彰氏の論文「『平和を実現する』教育とは——宣教師 J. H. Covell の平和教育思想と実践を手がかりに」とも響き合っている。コメニウ

スは残酷な戦争の時代に、つらい迫害と逃亡を経験し、生涯にわたって亡命生活を余儀なくされた、ボヘミア兄弟団の指導者である。彼は世界平和の実現を真に可能にするために子どもの教育に望みをおき、キリスト教的世界観をもとに教育思想を展開して、「近代教育学の父」と呼ばれるに至った。朴先生も戦後の厳しい時代から現在まで在日コリアンとして、さらに日本社会において圧倒的なマイノリティであるキリスト者として生き抜いてこれられ、様々な困難を経験されたであろう。コメニウス本人に劣らぬ実存的な問題意識をもってキリスト教的平和教育が論じられており、小論ながら重厚さと深みを感じさせられる。

朴憲郁先生が築かれた研究と教育を礎に、薫陶を受けた卒業生たちの働きが豊かに用いられて、日本に福音的なキリスト教教育が確立することを祈るものである。

(ながやま・みち||東京神学大学准教授・日本基督教団安藤記念教会協力牧師  
(A5判・二二四頁・本体二六〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)



## 新刊 死生学年報 2018

### 生と死の物語

東洋英和女学院大学  
死生学研究所編  
●A5判並製 本体2500円＋税

『魔女の宅急便』『風立ちぬ』から  
オイディプス神話へ  
古川 のり子

●  
西洋占星術に見る  
人の生死と運命  
比留間 亮平

●  
社会活動における  
宗教的価値の相反と克服  
高瀬 頌功

●  
金光教の死生観  
奥原 幹雄

●  
病氣治しと死霊の供養  
渡辺 和子

●  
能に見る生者と死者との交流  
J. ファーナー

●  
知識人と一般人の  
死後生観をつなぐ  
宮嶋 俊一

●  
「いじめのせいで  
自ら命を絶ってしまうことは  
悲しすぎます」  
酒井 徹

●  
他、9篇

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402  
TEL03-3238-7678 FAX03-3238-7638

この時代に神の言葉を語ること  
袴田康裕編

## 地の塩となる教会をめざして



星出卓也

本書は二〇一三年から二〇一七年にわたって、日本キリスト改革派教会西部中会・世と教会に関する委員会にて主催された信教の自由の講演集です。十名の講師方は、政治的に現れる課題を、単なる政治や社会問題としてではなく、教会の本質が問われている課題として洞察深く取り扱っています。

吉田隆牧師は神戸改革派神学校の前身にあたる戦時下の中央神学校が廃校を決断する歴史から、獣への礼拝（黙示録13章）が強要される試練にあつて「教会を守る」ということが何を意味していたのかを問いかけています。宗教団体法によつて日本基督教団へと統合された教会は、「神社は宗教ではない」という理屈を受け入れ、天皇への参拝を「当然の儀礼」として容認することによつて教会や神学校の「組織や制度」を守ろうとしました。しかし、それは「キリストのもの」である教会を、「国のもの、天皇のもの」へと変える日本の（国家主義的）キリスト教への変容であつたこと。その結果、組織や制度は守つても、信仰という教会のいのちを失い、何を誤り、何に対して悔い改めるべきかがわからなくなった。まさに教会の本質を失つたこ

とを鋭く問いかけています。廃校の道を選んだ神学校が、「その切り株は残る」という神の言葉を信じ決断したこと、同時に、弱者と共に生き、悩む者と共に悩むキリストの苦しみをキリストのからだとして共に苦しむことができなかつた限界をも問いかけています。それは過去の歴史を学ぶことのみならず、今の時代を生きる主の教会が、教会であり続けることを、私たちに問いかけるものです。

朝岡勝牧師は、第二次世界大戦下のドイツの告白教会の歴史から、様々な時代の中で神の言葉を聴き、神の言葉を語る意味を問いかけています。当時のドイツの教会が、民族主義的熱狂の渦中に取り込まれる中で、カール・バルトが「神学を、ただひたすら神学だけを行う」と語つた、その意味は、「内向きに、この世で起こる出来事と無関係に神学する」という意味ではなく、この世界の中で、神の御心とは異なる潮流や熱狂の影響から自身を完全に退ける態度決定であり、むしろそのような熱狂に対して抗つたということこそが、この世の中で神の言葉を宣べ伝え、かつ聴くということに他ならないということ。それは「一つの

教会政治的態度決定なのであり、そして間接的には一つの政治的態度決定ですらあるのだ」とバルトが語るように、時にそれは中立であることを許さない政治的な応答を余儀なくされることでもありえます。ボンヘッファーは「兄弟たちの共同体」の中に「迫害を受けるユダヤ人」の存在が含まれていることを見逃すことがありませんでした。

このように、あらゆる時代において神の言葉が説教者に語るように求め迫ること（それが様々な政治的な応答を迫ることであつても）を、主の派遣の故に語る、その神の言葉への奉仕に召し出される召命こそが、いつの時代にも最も失われてはならないものであり、同時に失われているものであることを、今日の私たちに対して痛烈に問いかけています。それはひとえに教会が神の言葉に対する信頼を失っていることであり、同時に神の言葉を語るべく召されている説教者が、神の言葉の世に対する勝利への信頼を捨てている悲劇に他なりません。ドイツ告白

教会の闘いは、その意味で、聖書の言葉を語る説教における闘いであり、説教を聴くことにおける闘いでした。野寺博文牧師が語る、日帝支配下の朝鮮半島での朱基徹牧師の、神社参拝に抵抗する闘いこそが、神の言葉を宣教する説教の闘いであり、また宣べ伝えられた神の言葉が聴かれ、信じられ、キリストに服従するという教会存亡を賭けた「一死覚悟」の闘いでした。収録された講演が語られた二〇一三年から二〇一七年という時代は、第二次以降の安倍政権が猛烈なスピードで「戦後」から「戦前」へと変えていく四年間でした。この時代に向き合う主の教会が、いかに神の言葉を語るのか。私たちがいかに神の言葉を信仰をもって聴き、「イエスは主である」という証しにいかにか生きるのか問われている。今はまさにそのような時代であることをこの書を通して覚えずにはいられません。

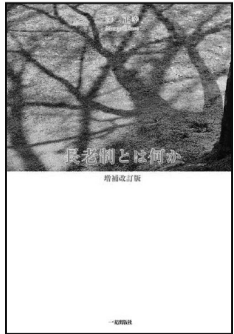
（ほしで・たくや）日本長老教会西武柳沢キリスト教会教師  
（四六判・三七八頁・本体三〇〇円＋税・一麦出版社）



## 長老制とは何か

増補改訂版

澤正幸  
Masayuki Swa



### 改革派・長老教会の 形成をめざして

カルヴァンの聖書註解、『キリスト教綱要』、そして「フランス信仰告白」「ベルギー信仰告白」とおしてなされた長老制の原理的基礎的な神学研究によって、長老制という準拠枠を示す。

四六判・並製  
定価【本体 1,200 + 税】円  
ISBN978-4-86325-110-6

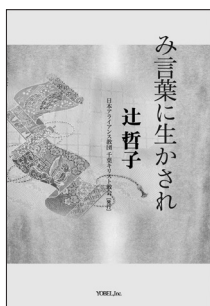


株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

勝利者であるキリストから愛され、証し人として用いられる

辻 哲子著

## み言葉に生かされ



及川 信

この書は、辻哲子先生が現在も礼拝の説教や奏楽などの奉仕をされている日本アライアンス教団千葉キリスト教会（牧師は娘婿の山中正雄氏）が、先生に対する日頃の感謝と米寿を祝う企画から生まれた。

内容は、著作、講演、説教、俳句からなっている。

著作の最初に入られているのは、嘗て『信徒の友』に連載された文章である。それは「命のある限り、恵みと慈しみはいつもわたしを追う」と題され「高齢者の生きがいを求めて」が副題となっている。私たちは「若いころは良かった」と思いがちである。しかし、高齢になったからこそ出来ることがあり、分かることも多い。何より、主の「恵みと慈しみ」の深さは歳を経てしみじみ分かるものだと思う。

幾つも挙げたい文章があるが、以下の文章もその一つである。「勝利の行進に連なるとは『公』に示す。知らせる」という意味があります。そのことから、私たちがキリストの教会に連なることは、罪と死から勝利したキリストを公に知らせることになるのです」。

「聖書は人間の死についてのどのように教えているか」「聖書的説教を志向しながら」においても、先生は、私たち人間が必ず直面する死の問題に真正面から取り組み、そして一人の説教者としてのご自分が何を目指してきたかを書いておられる。

数多ある講演の中で選ばれたのは「聖書におけるキリスト」である。その中で、旧約聖書、新約聖書の構想、聖書全体の形、教会の正典としての聖書を述べ、最後にローマの信徒への手紙の冒頭部分に触れられる。そこには、こうある。

「キリスト・イエスの僕、神の福音のために選び出され、召されて使徒となったパウロから、この福音は、神が既に聖書の中で預言者を通して約束されたもので、御子に関するものです」。

私たち日本人は、異邦人であるにもかかわらず聖書によって福音を知らされ、信仰を与えられ、神の家族とされている。その中心にキリスト（救い主）がおられる。そのキリストを信じることが出来る喜び、感謝が語られる。辻先生らしいのは、そういう自分たちが、証し人として世に遣わされていることが最後に語られることだろう。

説教には「古きは過ぎ去り、見よ、新しく」「神の御心なら

「キリストの勝利の行進である教会に連なり続けることが大切なのだ」と文章は続く。人は、この世に於いて「勝ち組」なのか「負け組」なのかを気にする。しかし、「キリストの勝利の行進である教会に連なっていることが人間にとって大切なのである。そこに、真実な人間の姿がある。

本書全体を通して感じることは、神様の救いのご計画が書かれている聖書と、その聖書を共に読み「キリストの勝利」を証する教会に対する絶対的信頼、そして幾つになっても変わることはない「伝道」への意欲を、辻先生が今も強く持つておられるということである。

本書には直接関係ないが、こういうことがあった。辻先生が深く関わっている聖書止典論の集會に甲府近郊で出席した翌日、筆者が牧する山梨教会の礼拝にお友達を連れて来てくださった。その友達も、古くからの友達ということだけでなく、最近ひょんなことから知り合いになった方なのである。普段は「元牧師」（静岡草深教会）であることを隠しているそうだが、いざ伝道になると思えば、そういうことをなさる方なのである。

「再臨と神の忍耐」の三篇が挙げられている。最後のものを少しだけ紹介したいと思う。キリストが世の終わりに再臨されると聖書に記されていることには、誰しも関心があると思うからである。説教の中にこういう言葉がある。

「世の終りは必ず来る。ですから私たちは聖餐式のとときに『マラナタ（主よ来たりませ）』と賛美し、再臨の主を待望するのです。代々の教会もその歌を歌いながら、主がおいでになるのを待ち望んでいます」。

「神様のみ言葉は必ず成就いたします。真実です。信じていくことです」。

どこまでもストレートなのである。私たちは何歳になっても勝利者であるキリストから愛され、証し人として用いられる。それは確かだと、本書は思わせてくれる。感謝である。

最後に、隠退後に始めた俳句が掲載されている。辻先生の鋭い目がかこでも見える。

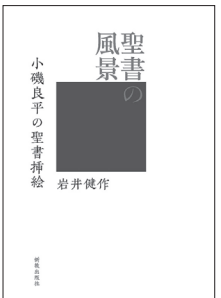
多くの方がこの書を手にとって、信仰に生きる喜びと感謝を感じて欲しい。

（おいかわ・しん||日本基督教団山梨教会牧師）

（四六判・一七六頁・二二〇〇円＋税・ヨベル）

芸術と信仰のマリアージュ  
岩井健作著

### 聖書の風景 小磯良平の聖書挿絵



### 野本真也

「聖書の風景」とは、とても詩的な書名だ。「風景」はシーン、ビュー、ランドスケープと、多様な意味を含んでいる。ある場所を眺めるとする。しかし場所が同じでも、人によって、その人の心の状態によって、月日や時間によって、見え方は全く違ってくる。

聖書の風景もそれと同じ。聖書の読み方、読み取るメッセージも様々な条件によって変化するからだ。そのことを重視するのが、現今の聖書解釈学と聖書神学の特質でもある。

この本は、聖書の三十二の物語に付けられた小磯良平の挿絵を、そのような「風景」として眺めながら、彼との対話を、そして聖書記者たちとの対話を試み、聖書のメッセージを取りつこうとしている。

ちなみに、小磯の挿絵が付いた『口語聖書』や『新共同訳聖書』は現在売り切れている。それだけにこの本は小磯の挿絵を目にする貴重な機会を提供してくれるわけだ。小磯は、切れ味が鋭く緻密で陰影も立体感も見事に浮き上がらせる線を基本に、聖書の物語の場面を描き出している。

それにしても意外だった。著者は神学生として神戸教会に二年間派遣された後、呉山手教会、岩国教会牧師を経て、一九七八年に再び神戸教会牧師として招聘され、二〇〇二年まで四半世紀にわたって伝道牧会に携わった人だが、「あとがき」にこう書かれていたからだ。

「時を経て、私は神戸教会牧師に招聘された。教会員名簿に『小磯良平』の名を見つけたときは驚いた。この人がクリスチヤンだったことを知らなかった。」

「へえ、岩井さんが知らなかったとは！」と驚いたのは、二年後輩の私のほうだ。でも、あの美しい女性像の油絵やデッサンは、誰でもどこかで見ているにちがいないが、彼がクリスチヤンだったということは、たしかに今でもほとんど知られていないだろう。ちなみに小磯が生まれ育った岸上家も、養子先の小磯家も、明治初期に神戸で宣教活動を開始したアメリカン・ボードの宣教師たちの支援によって設立された神戸教会や神戸女学院に深く関わっており、実母も養母も神戸教会員であり、神戸女学院の卒業生だ。しかも、舞台はあの「風見鶏」で有名

な北山や山本通一带とくれば、そこで生まれ育った小磯の絵が「神戸モダンリズム」の代表であることに何の不思議もない。

岩井牧師は少年時代から小磯の絵に惹かれていたというが、こうして牧師として小磯と出会い、深い交わりの時を持ちつづけ、小磯が天に召されたときには葬儀も司った。その出会いと交わりの追想がページのあちこちに散りばめられている。

そうであれば、小磯の絵と信仰へのじつに深い洞察が随所に示されていることも、驚くには当たらない。たとえばこの本には「明るい」「明るさ」という表現が、数えてみると七回、「光」はなんと六十六回も出てくる。例を挙げると「占星術の学者たち、イエスを拝む」という挿絵についてこう述べる。

「小磯は（場面を夜という）従来のイメージにとらわれることなく、（昼という）明るい場面でイエスの誕生を描いた。……小磯の挿絵の明るさの底には、画家の性格や特性はもとより、近代日本のキリスト教の闊達さが感じられる。……（この場面は）『わたしは世の光である』とのイエスの言葉につな

小數クリスチャンがどう時代を生きるか！

### 藤本満 乱気流を飛ぶ

高津キリスト教会牧師  
旧約聖書タニエル書から

\*好評発売中！  
電子書籍同時発売中！



ヨベル新書 048  
あなたは今、日々を生き抜いているだろうか。

### 無菌室のポーカー

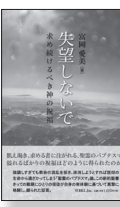
前藤野富永教会牧師  
牧師人生の中で一瞬交差した忘れがたい想いを回顧！



パンクロッカーのポーカーとして22歳で天選した著者と結ぶ出会いと別れが本書へに増載され大きな反響を呼び、補改訂新版として新登場。  
四六判・1,000円

### 富岡愛美 失望しないで

「聖霊のバプテスマ」をあなたは説明できるだろうか。



強調しすぎても教会の混乱を招き、抹消しようとするれば信仰の生命から遠ざかってしまふ「聖霊のバプテスマ」論。自身の実体験に基づき真摯に格闘し、綴った証言。  
四六判・1,000円

がる。この言葉で暗示されている『世』の暗さ、すなわち星の夜の実存は、小磯の挿絵の明るさにも逆説的な形で秘められているように思える。その意味で、挿絵のメッセージは聖書の最初の言葉「光あれ」に通じるものがある。

同感だ。聖書のメッセージは、文脈と状況の捉え方によって万華鏡のように変化する。しかし、その万華鏡も「光」に向けなければ、見えるのは暗闇だけだ。

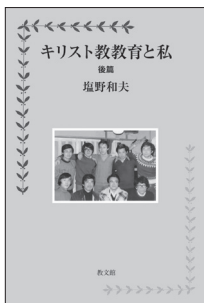
この本は、暗さの増す現在の世相の中で、聖書の示すこの「光」を小磯の挿絵を媒介として指し示している。と同時に、小磯における芸術と信仰のマリアージュを讃えながら、著者自身の信仰をも証している。いや著者はさらに、小磯の挿絵を見つめながら、聖書との対話を共にしようではないかと懸命に招いている。その招きに応えるのはあなただろうか？

(のもと・しんや 日本基督教団賀茂教会牧師)

株式会社ヨベル YOBEL Inc.  
お問合せは info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1  
TEL03(3818)4851 (本体税別表示)  
\*自費出版の専門出版社\*資料・呈

つづされた現実を乗り越える魂の回顧録  
塩野和夫著

# キリスト教教育と私 後篇



松見 俊

本書は著者が「あとがき」で書いてるように前篇(二〇一三年)そして中篇(二〇一五年)の出版に引き続くシリーズもので、『西南学院大学国際文化論集』に発表された「キリスト教教育と私」という論文を編集したものである。著者が同志社大学神学部編入学した一九七五年から西南学院大学に就任する直前九三年三月までの一八年間、一人のキリスト者、牧師、学究として奮闘し、傷つきながら生きてきた魂の回顧録である。それは、キリストの恵みによって生かされてきたゆえに、「つづされた現実を乗り越える」物語でもある。私が本書を読んだ心に浮かんできた聖句は、IIコリント四・七〜一〇である。「ところで、わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。この並外れて偉大な力が神のものであって、わたしたちから出たものでないことが明らかになるために。わたしたちは、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず、虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされない。わたしたちは、いつもイエスの死を体にとっています、イエスの命がこの体に現れるために」。

本書は二二章と付録の一〇文章(祈り)から成り立っている。一章には、著者が同志社大学神学部において経験した、恩師がたとの出会い、そして、「イエスの言を聞く集まり」を立ち上げる顛末(神学部自治会関係者との確執を含む)、そして、早くもこの時から、腎臓に問題を抱えていたことが語られている。第二章は、神学の学びの中で多くの友人たちとの出会いがあったことが言及される。塩野は出会った教師たち、友人たち、教会の仲間たちの表情、言葉、しぐさを丁寧に記憶している人である。「読書ノート」なども登場するので、出会った友たちだけではなく、ご自分の語った言葉などを含めて日々の出来事を几帳面に記録に残しているであろう。

第三章〜四章は、同志社で修論のテーマとなった、詩編四二、四三編との出会いを縦糸にして、ここでも、神学生としての教会での奉仕や多くの友人たちとの出会いの喜びが横糸として奮闘記を織りなしている様を描いている。

第五章は、一九七九年、伝道師として最初に赴任した日本基督教団大津教会の会員たちとの多彩な出会いや教会での奉仕を教学の担当者として任用される直前までの歩みを扱っている。著者はまさに、情熱(パッション)の神に応答する、情熱の人、また、傷ついた者の傍らにしようとする「共感共苦」(コンパッション)の人である。そして、恩師たち、仲間たちから期待され、祈られ、愛されてきた人である。各章に、ときに辛辣で、人を傷つける、それでいてまっすぐなもの言いをする教会に集う人々の言葉が書き留められている。牧会に疲れ果て、消耗する経験を持つ人は、共感、苦笑しながら、本書を通して慰められ、癒されることであろう。是非、一読をお勧めする。

(まつみ・たかし) 西南学院大学神学部元教員・バプテスト東福岡教務協力牧師  
(四六判・二三〇頁・本体二〇〇円+税・教文館)

生き生きと彷彿させる。第六章でも大津教会での出来事が綴られている。この章は腎臓病が悪化して、血尿が出たこと、そのような中で日本基督教団宇和島信愛教会と伊予吉田教会から牧師としての招聘があったことで閉じられている。

第七章〜九章までは、宇和島信愛教会と伊予吉田教会での出会いの物語である。実に著者は牧師として、祈りの人、人に関心を持ち、家庭訪問をする人である。しかし、人との親密な出会いは互いに人を傷つける。キリスト教会で良くある話であると言えばそれまでであるが、新任牧師の活躍で新しい風が吹いてくると古い会員たちの間にザワツキが起る。そして、牧師配偶者にもまたストレスが溜まる。彼らは志半ばで、八年間の働きを収束させざるを得ず、宇和島を去ることになる。

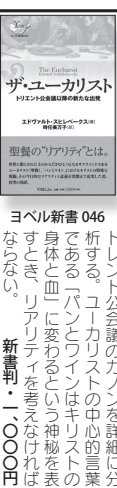
第一〇章からの三章は、牧師としての挫折後、同志社大学大学院後期課程で学生生活に戻り、伝道・牧会で受けた傷の意味を反芻し、将来教育者として西南学院大学のキリスト教教育、宗

## E・スヒレバークス 時任美万子訳

# ザ・ユーカリスト

## トリエント公会議以降の新たな出発

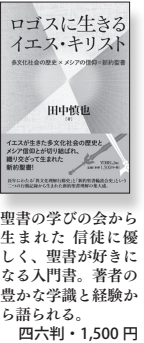
聖餐の「リアリティ」とは、基本的なテーマである。キリストの現存性(カネ)を詳細に分析する。ユーカリストの中心の言葉である「パンとワインはキリストの身体と血に変わる」という神聖を表すとき、リアリティを考慮しなければならぬ。



## 田中慎也 多文化社会の歴史×メシアの信仰 新約聖書

# ロゴスに生きる イエス・キリスト

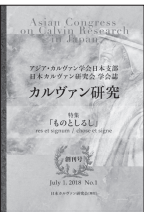
イエスが生きた多文化社会の歴史とメシア信仰とが切り結ばれ、織り交ざって生まれた新約聖書!



聖書の学びの会から生まれた信徒に優しく、聖書が好きな人への入門書。著者から豊かな学識と経験が語られる。  
四六判・1,500円

## カルヴァン研究 創刊号

特集「ものとし」  
res et signum / chose et signe



研究会で発表された講演を中心にまとめたもの。カルヴァン研究の発展のために。執筆: 加藤 武/久米 あつみ/塩川 徹也/久米 博/金子 晴勇/鎌木道剛/野村 信/岩田 園 A5判・1,500円

株式会社ヨベル YOBEL Inc.  
お問合せは info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1  
TEL03(3818)4851 (本体税別表示)  
\*自費出版の専門出版社\*資料・星



# 2018



# キリスト教本屋大賞

## 全国のキリスト教書店員が選んだ いちばん読んでほしい本

### キリスト教本屋大賞の概要

#### 【選出方法】

■一次選考（2018年2月1日～2月28日）

▶▶▶無事終了いたしました。

投票用紙を全国のキリスト教書店に配布し、ベスト3を投票。  
合計得点の多い10作品（今回は同率作品があるため11作品）を  
ノミネート作品としました。（1位＝5点、2位＝4点、3位＝3点）

■二次選考（2018年6月1日～6月30日）

▶▶▶ただいま審査に向けて準備中です。

ノミネート11作品の中で決選投票を行い大賞を  
選出します。

■大賞発表 8月上旬(予定)

投票に参加した全国のキリスト教書店の店頭、  
フェイスブック、主なキリスト教新聞、雑誌  
などで発表します。お楽しみに！

### 2018年6月～9月 全国のキリスト教書店にてフェア展開予定

#### ●一次投票参加書店

北海道キリスト教書店  
善隣館書店  
仙台キリスト教書店  
恵泉書房  
聖公書店  
ABC(アバコブックセンター)書店  
サンパウロ

ドン・ボスコ社

待農堂  
教文館  
CLC BOOKSお茶の水店  
バイブルハウス南青山  
横浜キリスト教書店  
清光書店  
ライセンスター新潟書店

CLC BOOKS金沢店

静岡聖文舎  
名古屋聖文舎  
CLC BOOKS名古屋店  
京都ヨルダン社  
大阪キリスト教書店  
びぶるすの森  
神戸キリスト教書店

広島聖文舎

CLC BOOKS広島店  
徳島キリスト教書店  
松山キリスト教書店  
新生館  
北九州キリスト教ブックセンター  
キリスト教書店ハレルヤ  
沖縄キリスト教書店

読者も参加  
できる新企画

## ノミネート作品から選ぶ「いいね!」大賞

フェイスブックで好きなノミネート作品に「いいね!」をして投票しよう!  
期日までに最も多く「いいね!」された作品が、読者が選ぶ「いいね!」大賞!

▶投票 6月30日まで

▶発表 7月上旬

QRコードで簡単アクセス!

シェアやお勧めのコメントも大歓迎!



<https://www.facebook.com/christianbookoftheyear>

キリスト教本屋大賞の詳細はチラシやポスター、上記フェイスブックページをご覧ください。

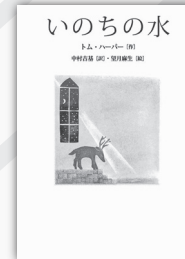
2017年1月～12月に出版されたキリスト教書の中から  
全国のキリスト教書店員が大賞を選出します。

## ノミネート11作品

(タイトル50音順)



花の詩画集  
足で歩いた頃のこと  
星野富弘◎著  
1,728円(偕成社)



いのちの水  
トム・ハーバー◎作  
中村吉基◎訳  
望月麻生◎絵  
1,620円(新教出版社)



こころの深呼吸  
気づきと癒しの言葉366  
片柳弘史◎著  
972円(教文館)



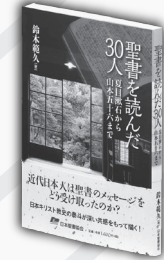
主日礼拝の祈り  
越川弘英/吉岡光人◎監修  
1,620円  
(日本キリスト教団出版局)



神父さま、なぜ日本に?  
ザビエルに続く宣教師たち  
女子パウロ会◎編  
1,296円(女子パウロ会)



聖書は何と  
語っているでしょう  
「生きること」「死ぬこと」  
そうして「永遠に生きること」  
湊 晶子◎著  
1,080円(ヨベル)



聖書を読んだ30人  
夏目漱石から  
山本五十六まで  
鈴木範久◎著  
1,728円(日本聖書協会)



地図で学ぶ 宗教改革  
ティム・ダウリー◎著  
青木義紀◎訳  
2,592円(いのちのことば社)



はじまりは愛着から  
人を信じ、自分を信じる子どもに  
佐々木正美◎著 山脇百合子◎画  
972円(福音館書店)



広げて見る  
聖書・キリスト教歴史年表  
青木義紀◎訳  
3,024円(いのちのことば社)



ポップカルチャーを哲学する  
福音の文脈化に向けて  
高橋優子◎著  
2,160円(新教出版社)

主催 キリスト教出版販売協会

※表示価格は8%税込価格です

平野克己	説教を知るキーワード	四六	160	1,500	〃	3/7
片山はるひ・高山貞美編著	2017年上智大学神学部夏期神学講習会講演集 和解と交わりをめざして — 一宗教改革500年を記念して	四六	192	1,800	〃	3/20
土井健司監修	1冊でわかるキリスト教史 — 古代から現代まで	A 5	250	2,200	〃	3/23
田島卓	エレミヤ書における 罪責・復讐・赦免	A 5	328	3,400		3/26
辻哲子	み言葉に生かされ	四六	176	1,200	ヨベル	3/1
西谷幸介	教育的伝道 — 日本 のキリスト教学校の使命	A 5	376	3,600	〃	3/1
黒木安信	変わらない主の真 実に支えられて	四六	272	1,500	〃	3/23
ティモシー・S・レイン他著 田口美保子訳	人はどのように して変わるのか	A 5	408	1,000	〃	3/25

『本のひろば』のバックナンバーをWeb上で閲覧できます。「キリスト教文書センター」のホームページから「書評誌『本のひろば』」にアクセスしてください。

#### 2018年2月号

<http://www.bunsyo.or.jp>

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：読書は本当に嫌いなのか？	落合建仁	
こころの賛美歌・唱歌	大塚野百合監修、日本キリスト教団出版局	小島誠志
戦後70年の神学と教会	新教出版社編集部編	渡辺英俊
主日礼拝の祈り	越川弘英、吉岡光人監修、日本キリスト教団出版局	宮崎光
二つの宗教改革	H.A.オーバーマン著、教文館	芳賀力
ギレアド	マリリン・ロビンソン著、新教出版社	岸本和世
松居直と絵本づくり	藤本朝巳著、教文館	菅田栄子
信仰・希望・愛	宮原守男著、教文館	船本弘毅
旧約聖書続編 スタディ版 新共同訳	日本聖書協会刊	廣石望
神と人間のドラマ	松本敏之著、キリスト新聞社	大島力

#### 2018年1月号

巻頭エッセイ：朗読は人を作る	上田 彰	
NTJ新約聖書注解 ガラテヤ書簡	浅野淳博著、日本キリスト教団出版局	対談 浅野淳博 廣石望
宗教改革と現代	新教出版社編集部編	出村彰
日本キリスト教史	鈴木範久著、教文館	山口陽一
『ハイデルベルク信仰問答』の神学	L.D.ビエルマ著、教文館	加藤常昭
信頼のしるし	ローワン・ウィリアムズ著、教文館	中村豊
『キリスト教綱要』物語	B.ゴードン著、教文館	関川泰寛
神の物語 上・下	マイケル・ロダール著、ヨベル	久下倫生
無から有	鈴木恭子著、キリスト新聞社	篠浦千史

#### 既刊案内 (2018年2月～3月) (定価はすべて本体価格+税)

編・著・訳者	書名	判型	頁	本体価格	版元	発行日
宮平望	現代アメリカ神学 思想増補新版 — 平和・人権・環境の理念	A 5	323	2,800	新教出版社	2/23
荒井献	キリスト教の再 定義のために	四六	528	4,500	〃	2/28
堀川敏寛	聖書翻訳者ブーバー	A 5	328	4,100	〃	2/28
山田耕太	Q 文 書 — 訳文とテキスト・ 注解・修辞学的研究	A 5	456	7,100	教文館	2/25
N.T.ライト著 本多峰子訳	悪と神の正義	四六	216	2,000	〃	2/26
加藤常昭編	日本の説教者たちの言葉 わが神、わが神 — 受難と復活の説教	四六	260	2,500	日本キリスト 教団出版局	2/10
ピーター・スピーア作 小宮由訳	魚にのまれたし ヨナのおはなし	A 4 変	40	1,500	〃	2/23
アダタガー・コヘン	現代ヘブライ語にお ける前置詞の重要性 — ヘブライ語の歴史と 発展に関する一考察	A 5	228	3,500	リト ン	2/28
カール・バルト著 天野有編訳	バルト・セレクション6 教会と国家 III — 東西冷戦の時代	文庫判	587	1,800	新教出版社	3/16
八木俊久	歴史から世界へ — 20世紀プロテスタント神学 におけるキリスト論の諸問題	A 5	331	3,400	〃	3/22
岩井健作	聖書の風景 — 小磯良平の聖書挿絵	A 5 165頁+ 変 口絵32頁		2,500	〃	3/31
N.T.ライト著 山口希生訳	新約聖書と神の民 下巻	A 5	336	3,700	〃	3/31
大澤耕史	金の子牛像事件の解釈史 — 古代末期のユダヤ教とシリ ア・キリスト教の聖書解釈	A 5	220	5,400	教文館	3/10
小見のぞみ	田村直臣のキリスト教教育論	A 5	490	6,000	〃	3/23
加藤哲平	ヒエロニムスの聖書翻訳	A 5	364	5,200	〃	3/23
東京神学大学神学会編	新キリスト教組織神学事典	四六	400	4,200	〃	3/23
塩野和夫	キリスト教教育と私 後篇	四六	330	2,000	〃	3/23
小島誠志	55歳からのキリスト教入門 イエスと歩く道	四六	120	1,200	日本キリスト 教団出版局	3/7

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用			02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1701F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中延町2-2 榎ヶ丘センタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbdo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-9230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.jp/~yokohata-cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunsha.cococan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/index.htm	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環読道字線777 沖縄キリスト教院内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

## 2017年12月号

巻頭エッセイ：『余は如何にして基督信徒となりし乎』との出会い 中田一郎		
キリストへの愛と忠誠に生きる教会	上田光正著、教文館	近藤勝彦
生命の宗教 キリスト教	竹田純郎著、リトン	江口再起
キリスト者の証言	原敬子著、教文館	東條隆進
キリスト教思想史Ⅱーアウグスティヌスから宗教改革前夜まで	フスト・ゴンサレス著、新教出版社	片山寛
旧約のアドヴェント	牧野信成著、一麦出版社	大石周平
恩寵々と	手束正昭著、キリスト新聞社	三谷康人
神学によるこび 新装増補改訂版	アリスター・E.マクグラス著、キリスト新聞社	朝岡勝
聖書に登場する12人の非凡な女性たち	ジョン・マッカーサー著、ヨベル	矢木良雄
白沢久一	宮武正明著、大空社出版	杉村宏
アレティア特別増刊号 受肉の驚き	日本キリスト教団出版局編	松木進
あなたに平安がありますように	佐竹順子著、大空社出版	乙幡和雄

## 2017年11月号

巻頭エッセイ：愛読書は『悪魔の手紙』 上田好春		
エッセイ：第16回東北アジア・キリスト者文学会議に参加して 市川真紀		
シリーズ わたしたちと宗教改革1 歴史	藤本満著、日本キリスト教団出版局	林牧人
シリーズ わたしたちと宗教改革2 聖書	大住雄一著、日本キリスト教団出版局	井ノ川勝
待ちつつ急ぎつつ	井上良雄著、新教出版社	大野恵正
正教会入門	ティモシー・ウェア著、新教出版社	久松英二
「神」の発見	小塩節著、教文館	斎藤佑史
日本の教会の活性化のために	上田光正著、教文館	加藤常昭
旧約聖書の釈義	D.スチュワート著、教文館	小友聡
ルターと賛美歌	徳善義和著、日本キリスト教団出版局	日笠山吉之
宗教改革と現代の信仰	倉松功著、日本キリスト教団出版局	上田彰
近代日本キリスト者との対話	鶴沼裕子著、聖学院大学出版会	深井智朗
宗教改革の問い、宗教改革の答え	ドナルド・K.マッキム著、一麦出版社	真田泉

## 2017年10月号

巻頭エッセイ：負うた子に教えられる 高橋優子		
キリスト者の標識	井上良雄著、新教出版社	関田寛雄
ポップカルチャーを哲学する	高橋優子著、新教出版社	ラフェイ・ミシエル
異端反駁Ⅱ キリスト教教父著作集2-Ⅱ	エイレナイオス著、教文館	土井健司
ゴッホと〈聖なるもの〉	正田倫顕著、新教出版社	久米あつみ
宗教改革史	ローランド・ベイントン著、新教出版社	踊共二
カルヴァン神学入門	G.プラスガー著、教文館	佐藤司郎
『ハイジ』の生まれた世界	森田安一著、教文館	小塩節
聖書は何と語っているでしょう	湊晶子著、ヨベル	鈴木典比古



# 福音と世界

2018年6月号

特集 労働に希望はあるのか

寄稿者 笠原義久、渋谷望、深谷美枝

旗手明、要友紀子

好評連載 野に咲く民衆の神学（森宣雄）、福音の地下水脈（植本一子）、聖書とわたし（西川美和）、地のいと低きところにホサナ（ブレイデイミカこ）、みことば散歩（望月麻生）、現代神学の冒険（芦名定道）、詩篇の思想と信仰（月本昭男）、第一テモテ書（辻学）ほか

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

## 編集室から

タイトルに惹かれて『図説 異端の宗教書』久米昌文著、新人物往来社、という本を買いました。明治から昭和前半の、いわゆる「キワモノ」的な宗教書の文献目録です。収録本の中には発禁になったり、秘伝書として関係者だけに配布された文書もあります。著者はただ収集編纂したのではなく、それぞれの本に解題をほどこし、その上で、これら「異端の宗教書」に通り底しているのは、近代合理主義への反発であると言います。宗教を科学の視点から捉える立場が、本来豊穡だった宗教の世界を貧相なものに変えてしまった。それに対して、宗教を近代合理主義の呪縛から解放しようとしたのが「異端の宗教書」である。

その真偽は分かりませんが、私もレアな宗教書を持っています。『主は偕にあり』田中遵聖著、アメンの友、一九七七（非

売品）です。著者の田中遵聖（一八八六一—一九五八）は、聖霊運動により教派を離脱し、呉市で独立伝道をした牧師です。

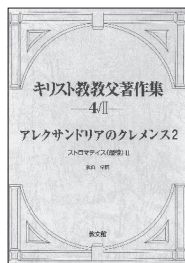
息子で作家の田中小実昌が谷崎賞を受賞した作品『ポロポロ』（河出文庫）は、父牧師をテーマにしたものですが、タイトルの「ポロポロ」とは、ぼろぼろ異言が出たという説と、祈祷中の「パウロ、パウロ」がポロポロに訛ったという説があります。いずれにせよ聖霊による神癒や祈祷を行い、正統派からは排斥されました。私の師であった牧師・伊藤義清は田中小実昌とは昵懇の間柄だったので、田中遵聖の本を蔵書していました。ある日、「読みたければあげるよ」と言われたので、譲り受けたのです。

日本のキリスト教界にも、それら埋もれた宗教書があるはず。ポスト・モダン・モダニズムの時代、宗教も先祖返りしているようです。「神とはあるとかないとかの論題にされるものではなく、ただちに賛美を引き起こすものだ」という田中遵聖の言葉に、なぜか親しみを覚えます。（寺田）

## 本のひろば 2018年7月号 予告

本・批評と紹介・カール・バルト著『教会と国家Ⅲ―東西冷戦の時代』、奥田知志他著『地域福祉と教会―関西学院大学神学部ブックレット10』、平野克己著『説教を知るキーワード』、本多峰子著『悪と苦難の問題へのイエスの答え』、ヴァインセンテ・アリアス著『ユーカーリスト』、片山はるひ他編『和解と交わりをめざして』他

異教の諸文化を  
活用した先駆者



**キリスト教教父著作集 4/II**  
アレクサンドリアのクレメンス2 ストロマティス(綴織)II  
秋山学訳

ギリシア教父クレメンスの名著。本巻ではロゴス論や教会論、聖餐論を展開。唯一の典拠となるものもあり、古代哲学史・ギリシア古典文学研究に必須!



**教文館**

さらなる読書のために  
**メディアにむしばまれる  
子どもたち**  
田澤雄作著  
電子メディアが子どもの健康に与える影響と回復の手引き

小児科医からのメッセージ

● 本体1,300円



発達障害の正しい理解と、適切な支援とは? 豊富な事例をまじえて原因と症状を解説し、家庭・保育園・幼稚園・学校・職場でのケアの仕方と、地域で得られる支援について現役医師が紹介します!

● 四六判208頁・本体1,300円

古荘純一著  
**発達障害サポート入門**  
幼児から社会人まで

幼児から社会人まで

オンデマンド化しました

**加藤常昭説教全集5** マルコによる福音書1  
**加藤常昭説教全集12** ヨハネによる福音書1

● 本体4,600円

● 本体3,900円



教会での汗と涙、喜びと悲しみ、そして祈り。クリスチャン・ホームで育ち、牧師夫人として教会のわざを一心に支えた日々を振り返り、希望のメッセージをおくる。

● 四六判154頁・本体1,500円

鵜飼栄子著 梅津順一／梅津裕美聞き手  
**微笑みをつないで**  
教会と共に90年

教会と共に90年

# 南島キリスト教史入門

5月25日

奄美・沖縄・宮古・八重山の近代と福音主義信仰の交流と越境  
一色 哲著 (いつしき・あき氏は帝京科学大学教授)

【神学への船出04】

なぜ南島には多くの教会が建てられ、多くの人の信仰を集めているのか。その歴史を丹念な調査と「交流史」的な視点から重層的に追究した力作。◆四六変判・本体2200円

# 聖書の風景 小磯良平の聖書挿絵

岩井健作著 (いらい・けんさく氏は日本基督教団隠退教師)

日本を代表する洋画家・小磯良平が描き下ろした32点の挿絵を一点ずつ取り上げ、画家が聖書から何を読み取り、いかに表現したかを解説。◆A5変判・本体2500円

大反響

# 新約聖書と神の民 下巻

好評

N・T・ライト著 / 山口希生訳

上巻で詳細な方法的基礎づけを終えた後、本下巻ではいよいよ原始教会の信仰理解を詳述。教会の生成と新約聖書の成立の様相が明らかとなる。◆A5判・本体3700円

主著邦訳、待望の完結！

# 教会と国家Ⅲ バルト・セレクシヨン6

カール・バルト著 / 天野有編訳

戦後の再建期から激しい冷戦期に向かう困難な時代に公にされた「キリスト者共同体と市民共同体」「国家秩序の転換のうちにある教会」など。◆文庫判・本体1800円

東西冷戦の時代

# バルト自伝

佐藤敏夫編訳

没後50年を機に読みやすく改版・復刊！ 「新教新書」 本体1200円

## トム・ハーパー 作 / 中村吉基 訳 / 望月麻生 絵 『いのちの水』 原画展開催中！

5月9日～27日、教文館3階ギャラリー・ステラにて

■友野富美子牧師による朗読ワークショップ

5/18 (金) 18:30～19:30 メッセージを肉声で伝えてみよう！

要申込 教文館キリスト教書部 Tel: 03-3561-8448 / Fax: 03-3563-1288



本のひろば  
一九五七年七月七日 第三種郵便物認可  
二〇一八年六月二日発行 毎月一回日発行

発行所 〒162-0814 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター  
電話〇三三三六〇一六五〇 振替〇〇七〇一五二六七九  
発行人 本村利春 編集人 土肥研 印刷所 (株)平河工業社  
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三三三六〇一五六七〇

定価七八円(税抜七四)千62円  
一年分三〇〇円(送料共)